就職活動応援特集

技術が向上し続ける環境

安部日鋼工業
技術工務本部　容器技術部
技術課　主任
河野　雅弘さん

■弱点を克服する技術

土木を専攻していた大学時代に安部日鋼工業の出前授業の一環でプレストレスト・コンクリート（PC）の講座を受講しました。その時、"コンクリートの弱点の引張力を克服する"というPCの技術に興味を持ちました。就職活動をする中で、講座の記憶が鮮明だったので調べてみたところ、地元の岐阜に本社があって、PC技術のトップ集団を有している会社だと知り、入社を決めました。

PCと言っても分野は広く、橋梁、タンク、建築、まくらぎなどで使用されています。その中で同社のタンクとまくらぎは国内シェア6割以上を占めていたことも、会社に興味を持った要因です。

■吸収できる環境

私は設計の部署に配属されましたが、現場を知るために1年ほど支店にいました。その時タンクの建設にも立ち会い、一通りの流れを学びました。土木は経験工学と言われていてマニュアル通りに適応できるものばかりではありません。この経験を通して、より自分の携わっている仕事の先を見通せるようになりました。設計の段階では想定し得ないことも、現場では多く発生します。その時にどのように対応するのかが重要ですが、現場を知らなければできないことも多くあります。自分で判断していかなければならない部分もある一方で、会社全体の想定外の出来事にも迅速に対応できる判断力やフォローできる協力体制に私自身も数多く助けられてきました。

現在は主にタンクの技術的なサポートをしています。具体的に言うとタンクの屋根になるアルミドームの設計照査や材料リスト作成、数量計算などです。アルミドームはアメリカから供給される材料なので、資料の翻訳などもしています。

ほかにも、国内で扱える技術者が少ないLECOMという解析ソフトを使った社内プロジェクトに参加したり、年に1本以上を目標に論文執筆をしたりしています。特にLECOMの研究会は高度な内容でやりがいがあります。加えて、PC業界の委員会活動にも参加し、社外との交流も行っています。このように、携わる業務は多種多様ですが、その道のNo.1技術者やレジェンドの方と仕事することもあり、たくさんのことを吸収できる環境です。

■成長を後押し

入社して10年程度経ちますが、入社直後に連れて行ってもらった現場で記録用のデジカメを川に落としたり、宿泊を伴う出張で財布とスーツケースのカギを忘れたり、今でも忘れられない失敗談があります。私は非常に上司に恵まれていて、失敗を重ねながら成長してきたと実感しますし、都度、自分をフォローしてくれた先輩方には本当に感謝しています。なお、当部署は大学の博士過程で勉強をしている方もおり、やる気次第で挑戦を応援してくれます。

安部日鋼工業は他社では真似できない珍しい技術を多く持つだけでなく、若手でも自分が成長したいと思った分だけ成長を後押ししてくれる会社だと思っています。

AIにはできない仕事を

NJS
水道本部　企画戦略部
及田　清佳さん

■合同説明会をきっかけに

NJSに縁を得て6年目を迎えました。高校生の時に参加した科学技術振興機構主催のサイエンスキャンプというイベントで水道の膜処理に興味を持ち、インフラの仕事に魅力を感じました。その後、大学では工学部に入り、衛生工学を学びました。当社との出会いは合同企業説明会です。フランクなコミュニケーションが印象的でした。

■最新の動きを意識して

入社以来、水道の計画業務を担当し、現在は、地域の水道の長期計画や経営戦略、広域化、官民連携等を担当する企画戦略部に所属しています。

コンサルタントの仕事というと設計のイメージが強かったので、最初は戸惑いました。学生時代にゼミの活動でビジネスプランの検討をしていたこともあり、業務を重ねていく中で経営の根幹に携われる仕事の面白さを感じるようになりました。

コンサルタントの仕事は、お客さまから経営も技術も詳しいと思って相談されますが、私自身、現場経験が浅く、勉強不足だと感じることも多くあります。専門的な質問をされることも数多くあるため、日々勉強が必要です。

仕事の中で感じるのは、マニュアルや知識とは別に実務の中でしか出てこない考え方があるということです。顧客とのやり取りをしっかりメモして、実務的なやり取りを取りこぼさないように心がけています。

詳しい専門的な知識は、先輩たちには敵いませんが、官民連携や広域化は日進月歩で進んでいる政策、考え方ですので、最新知識や新たな領域の知識の吸収を心がけています。

3年間一緒にお仕事をさせていただいている事業体から、仕事を重ねていくにつれ、雑談の中からさまざまな相談をしていただけるようになったことにやりがいを感じています。口がうまくなくても、素直さ、誠実さを意識して真摯に向き合うことで仕事の面白さが開けてくるのが、コンサルタントの仕事の醍醐味の一つだと感じるようになりました。

■自由闊達さが魅力

入社したのがコロナ禍の直前でした。コロナ禍を経た今、リモート勤務、時短勤務など多様な働き方に対応した制度が充実しています。業務量の管理も効率化され、仕事の平準化を自然に意識する環境だと感じます。休日もしっかり取得でき、ライフ・ワーク・バランスがしっかり保たれていると思っています。

また、入社前の印象の通り、年代や職責を越えて自由闊達に意見が交わされることは当社の魅力です。

これからコンサルタントが担う仕事の領域は広がっていくと思います。一方でAI技術の活用が進み、コンサルタントができることが一層試されていくのだと感じます。地域の要求に応えながら、「人」にしかできない仕事に向き合っていきたいと思います。

若手・中堅社員が語る

地域に根差す仕事にやりがい

ヴェオリア・ジェネッツ
官需水CS／管網管理事業本部
札幌事務所
納藤　倫明さん

■地元に根差した仕事を

大学卒業後は地元の北海道でリユース関係の企業に就職しました。物の再利用や環境保全などに興味があったので、やりがいを持って働いていました。しかし、今後のキャリアを考える時期にも差し掛かっていた時、北海道胆振東部地震が発生しました。この地震を契機に、地元に根差した地域貢献に携わる仕事に就きたいと考えるようになりました。

その後、転職サイトでヴェオリア・ジェネッツという会社の存在を知り、「検針を通じて地域社会を見守る」というキャッチフレーズが心に響き、入社を決めました。

■柔軟なコミュニケーションが鍵

現在、料金収納業務に従事しています。正直なところ、料金収納業務は体力勝負の仕事だというイメージを持っていましたが、実際に業務に就くとても細やかな気遣いが求められる仕事だと感じました。水道料金のお支払いが難しくなる理由はさまざまで、一人ひとりが持つ事情ごとに柔軟な対応が求められます。日々その奥深さを感じながら適度な緊張感を持ち、確実な業務の遂行に努めています。

1日の勤務は事務所内と外回りが半々くらいです。外回りでは何らかの理由で料金が未払いの方と直接会ってお話しする機会もありますが、未払いに至る理由は本当にさまざまです。しっかりと話に耳を傾け、コミュニケーションを取り、その方に合ったお支払い方法をご提示しながら、収納率の向上につなげていくことができることに、とてもやりがいを感じています。行政と利用者の橋渡しのような役割を担うこともあり、まさしく「地域社会を見守っている」仕事だと誇りに思っています。

■目標を持って取り組む

以前は「水道事業に関わる仕事＝休みが取りづらく突発的な出勤が求められる」と思っていました。しかし、実際はある程度自分で仕事を組み立てることができ、プライベートとのメリハリがつけやすいことがわかりました。これは実際に入社してみなければわからないことでしたし、良い意味で予想外でした。

入社当初は事務所で最年少だった私も、5年ほど経過し、今では後輩も増えました。当時の自分が困っていたことや疑問に感じていたことを思い出しながら、後輩と話をするように意識しています。責任感を求められる仕事ですが、事務所内の風通しは良く、コミュニケーションを取りやすい職場であると感じています。

また、働く中で自分の目標を立て、その達成に向けてコツコツと努力できる環境があります。今後も与えられた仕事を一つひとつ着実にやり遂げ、業務責任者を目指し、日々、まい進してまいります。

TJTM 月島ジェイテクノメンテサービス株式会社

TJAS 月島JFEアクアソリューション株式会社
当社は月島アクアソリューション（株）とJFEエンジニアリング（株）の国内水エンジニアリング事業部門が2023年10月に統合して誕生しました。
月島ホールディングスグループ